

段階	定義
レベルⅠ	<p>【基本的な看護手順に従い必要に応じて<b>助言を得て</b>看護を実践する】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助言を得て患者や状況のニーズをとらえる。</li> <li>2. 助言を得ながら、安全な看護を実践する。</li> <li>3. 関係者と情報共有ができる。</li> <li>4. 患者や周囲の人々の意向を知る。</li> </ol>
レベルⅡ	<p>【標準的な看護計画に基づき<b>自立して</b>看護を実践する】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者や状況のニーズを自らとらえる。</li> <li>2. 患者や状況に応じた看護をする。</li> <li>3. 看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる。</li> <li>4. 患者や周囲の人々の意向を活かすことができる。</li> </ol>
レベルⅢ	<p>【患者に合う<b>個別的な</b>看護を実践する】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者や状況の特性をふまえたニーズをとらえる。</li> <li>2. 患者や状況の特性をふまえた看護実践する。</li> <li>3. 患者やその関係者、他職種と連携ができる。</li> <li>4. 患者や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる。</li> </ol>
レベルⅣ	<p>【<b>幅広い視野で予測的判断</b>をもち看護を実施する】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者や状況を統合しニーズをとらえる。</li> <li>2. 様々な技術を選択・応用し看護を実践できる。</li> <li>3. 患者の取り巻く多職種の力を調整し連携できる。</li> <li>4. 患者や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる。</li> </ol>
レベルⅤ	<p>【より<b>複雑な状況</b>において、患者にとっての<b>最適な手段</b>を選択しQOLを高めるための看護を実践する】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者や状況の関連や意味をふまえニーズをとらえる。</li> <li>2. 最新の知見を取り入れた創造的な看護を実践する。</li> <li>3. 患者の複雑なニーズに対応できるように、多職種の力を引き出し連携に活かす</li> <li>4. 複雑な意思決定プロセスにおいて、多職種を含めた調整的役割を担うことができる。</li> </ol>